

原子力発電所の運転および建設状況

原子力安全対策課 平成11年 3月 4日現在

設備容量	運転中	14基	計1145万kW
	建設中	1基	計 28万kW

項 目		現 状	稼働率（進捗率）%		概 要
発電所名			平成10年度	運用後累計	
日本原子力発電㈱	1号機	運 転 中	7 5 . 2 7 5 . 0	7 0 . 0 6 6 . 7	H11.3.21°～3.314°10' A-非常用ディーゼル発電機の冷却用海水配管取替のため、当該発電機を待機除外。（添付資料）
	敦 賀 発 電 所	2号機	運 転 中	8 7 . 1 8 6 . 5	
核燃料サイクル開発機構 新型転換炉ふげん発電所		定期検査中	7 6 . 2 7 5 . 3	6 7 . 3 6 5 . 7	第15回定期検査(H11.1.8～6月中旬予定) H11.1.8 11°45' 発電停止。
核燃料サイクル開発機構 高速増殖原型炉もんじゅ		性能試験中 (事故停止中)	—	—	H7.12.8 中間熱交換器(C)2次系出口配管からのトリウム漏えいに伴い、21°20' 原子炉手動停止。
関 西 電 力 ㈱	1号機	運 転 中	8 1 . 8 8 1 . 0	4 8 . 1 4 4 . 9	
	2号機	運 転 中	8 0 . 9 8 0 . 4	5 9 . 0 5 7 . 0	
美 浜 発 電 所	3号機	運 転 中	1 0 0 9 8 . 7	7 4 . 3 7 2 . 7	
関 西 電 力 ㈱	1号機	定期検査中	9 7 . 0 9 6 . 9	6 1 . 9 6 0 . 6	第15回定期検査(H11.2.19～7月上旬予定) H11.2.19 0° 発電停止。
	2号機	定期検査中	4 5 . 4 4 4 . 9	7 0 . 8 6 9 . 5	第14回定期検査(H10.8.29～未定) H10.8.29 0° 発電停止。H11.1.25 18°21' 原子炉起動 1.26 1° 臨界。1.28 17°30' 調整運転開始。1.29 20° 制御棒1本が落下したため手動にて発電停止。その後、原子炉停止操作中に別の制御棒1本に挿入状態の不具合が認められたため、20°42' 原子炉手動トリップ。原因調査中。
大 飯 発 電 所	3号機	運 転 中	9 3 . 7 9 3 . 2	8 8 . 3 8 7 . 9	
	4号機	運 転 中	8 8 . 5 8 8 . 0	8 2 . 7 8 2 . 2	
関 西 電 力 ㈱	1号機	定期検査中	8 8 . 6 8 8 . 6	6 3 . 1 6 1 . 4	第18回定期検査 (H11.1.22～4月中旬予定) H11.1.22 0°30' 発電停止。
	2号機	運 転 中	8 6 . 2 8 5 . 8	6 4 . 2 6 2 . 2	第11回定期検査 (H10.12.7～H11.2.18) H10.12.7 1° 発電停止。H11.1.19 16°30' 原子炉起動、22°30' 臨界。1.22 3°27' 調整運転開始。 2.18 15° 営業運転再開。
高 浜 発 電 所	3号機	運 転 中	8 6 . 2 8 5 . 8	8 4 . 1 8 3 . 6	
	4号機	運 転 中	1 0 0 1 0 0	8 5 . 2 8 4 . 7	
		合 計	8 4 . 8 8 5 . 1	6 8 . 0 6 9 . 0	(注) 稼働率（進捗率）は、平成11年2月末現在。 累計は、営業運転開始以降。

上段が、時間稼働率 = $\frac{\text{発電時間}}{\text{暦時間}} \times 100 (\%)$

下段が、設備利用率 = $\frac{\text{発電電力量}}{\text{認可出力} \times \text{暦時間}} \times 100 (\%)$

平成10年度安全協定に基づく軽微な異常事象報告
(平成11年3月分)

敦賀発電所2号機 非常用ディーゼル発電機A号機の自動待機除外について

- ・発生日時：平成11年3月2日 1時00分（待機除外）
- ・終結日時：平成11年3月3日 14時10分（待機状態復帰）
- ・放射能による周辺環境への影響：なし
- ・国の取扱い：法律・通達に基づく報告対象外

・事象概要：

敦賀発電所2号機（加圧水型軽水炉：定格出力116.0万kW）は、定格出力にて運転中であるが、平成11年2月1日、巡回点検で、A-非常用ディーゼル発電機（D/G）の冷却用海水配管でにじみ程度のわずかな漏えいを発見した。点検の結果、配管内面に局所的な減肉が確認されたため、2月4日、当該部について金属接着剤（ペロメタル）等による補修を行った。

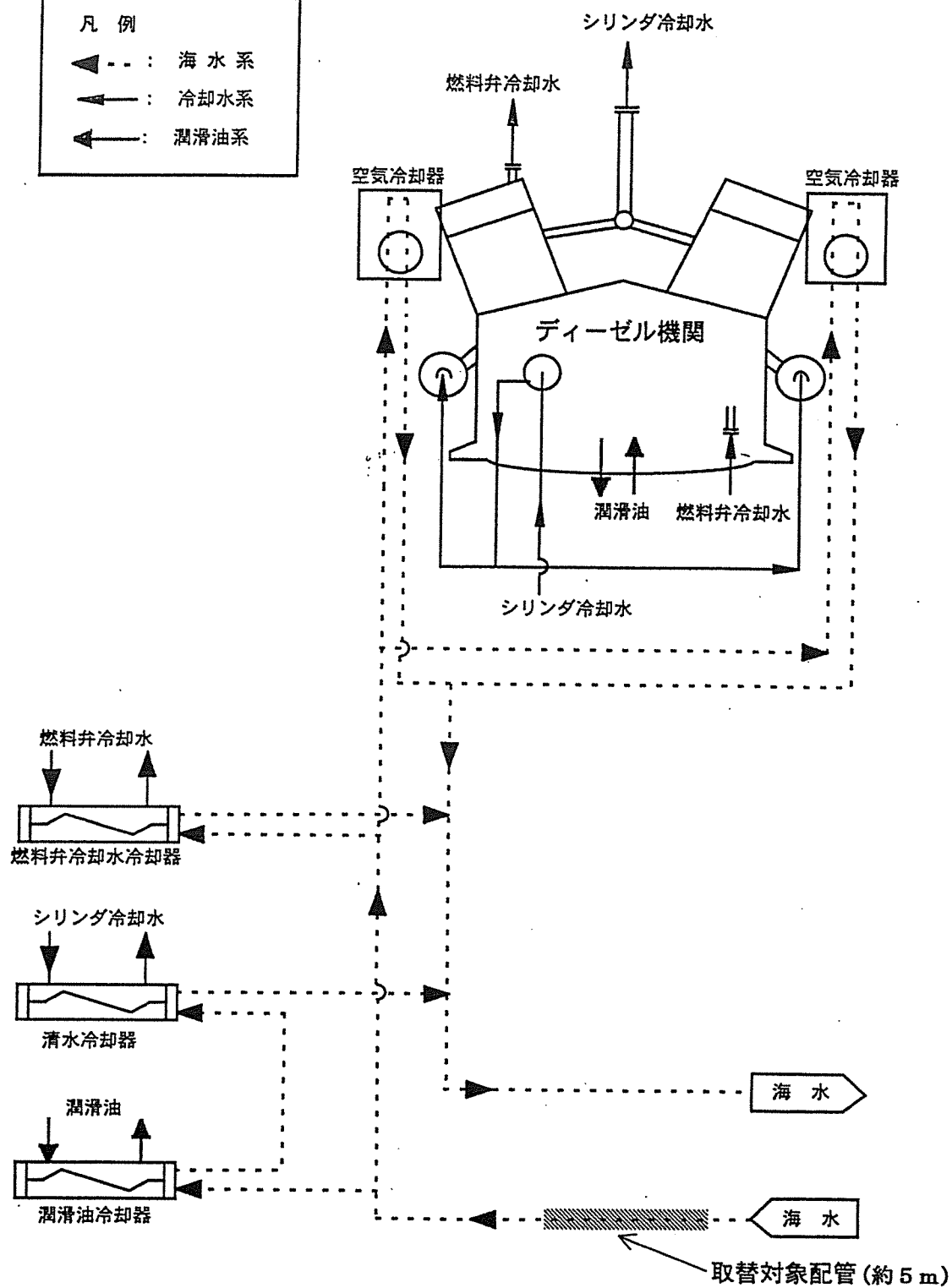
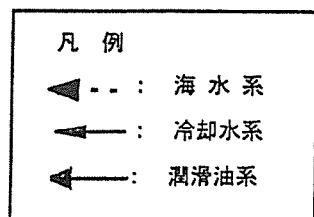
今回の事象では、D/Gの起動・運転に影響はないが、3月2日01時00分から3日14時10分までA-D/Gを待機除外とし、漏えい部を含む配管について、念のため取替作業を実施した。

調査の結果、海水による腐食を防止するため配管内面に張り付けてあるゴムが損傷したため、当該部において配管が腐食、減肉したものと推定された。

この事象によるプラントの運転および環境への影響はない。

[自動待機除外]

通常、ディーゼル発電機は、送電系統のトラブルで停電した場合等に、非常用機器に電源供給できるよう、いつでも自動で起動できる状態（自動待機状態）にあるが、点検や補修等のため、自動起動できない状態にすることを待機除外という。



配管仕様

外 径 : 267.4 mm
 肉 厚 : 9.3 mm
 材 質 : 高温配管用炭素鋼鋼管 (内面ゴムライニング)
 系統圧力 : 3.5 kg/cm²

非常用ディーゼル発電機 冷却海水系統図